

町勢概況	
昭48. 11. 1.現在	
人口	5,019人
男	2,326人
女	2,693人
世帯数	1,499戸

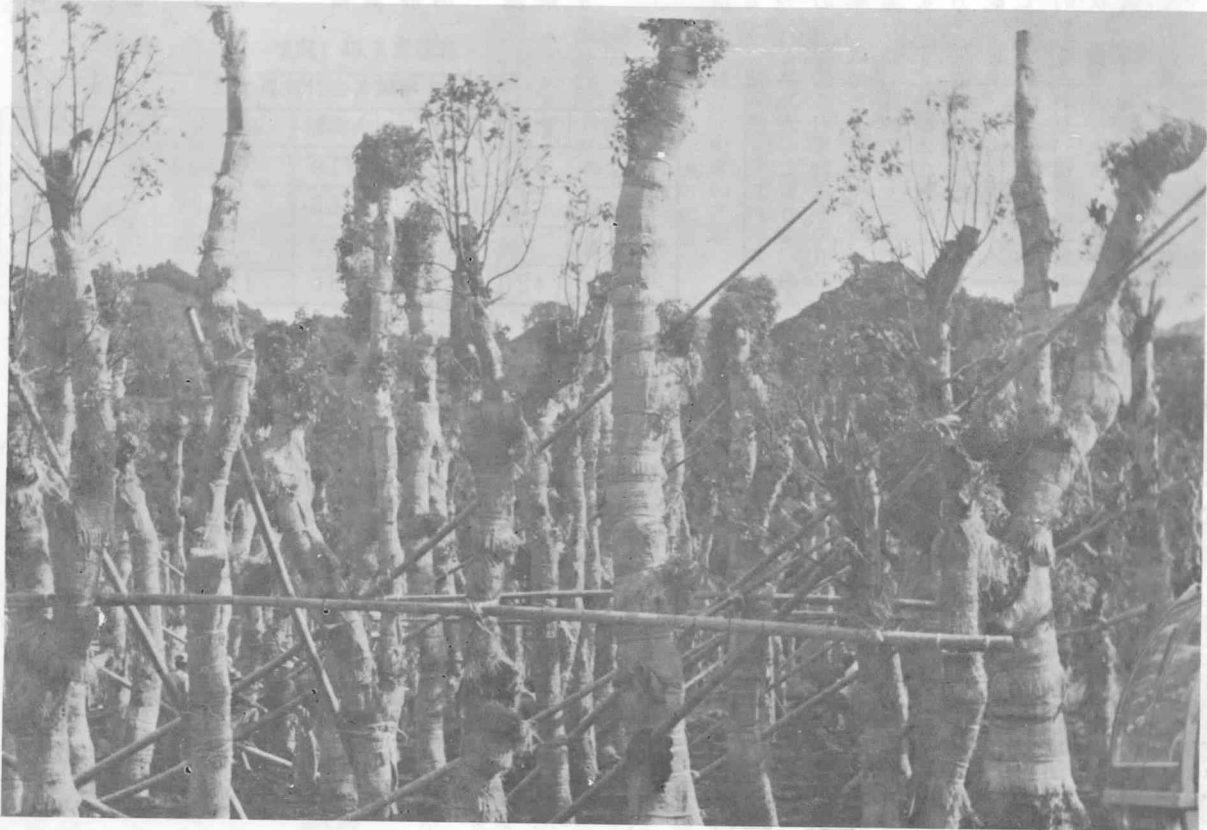
広報たし3

田代町企画室編集 毎月5日 1600部発行

No. 247

昭和48年

12月号



平原付近

発展する緑の産業

公害防止、環境緑化等の担い手としての緑化樹生産が数年前から本町でも盛んになり、現在では一つの産業として発展する勢いをみせている。

今日山村は国土緑化という面から、その存在が見直されつつある。

唯、緑化樹生産が、山村の緑を都市が収奪するという形でなく、山村は緑の生産工場となり、生産された緑を都市へ供給するという形で発展することを望んでやまない。

十二月のこよみ

日曜	行	事
5 水	移動援護相談所	
6 木	狂犬病予防注射（7まで）	
7 金	民生委員会・婦人会	
10 月	せり市	
12 水	老人クラブ役員会、社会教育委員会	
13 木	定例議会	
14 金	消防幹部会	
17 月	緑豊会研修旅行	
18 火	小組合長会	
19 水	国保運営委員会	
20 木	婦人ガン検診（21まで）、町技連総会	
21 金	教育委員会、農業委員会	
24 月	選挙管理委員会	
28 金	学校終業式	
29 金	御用納	
4 金	御用始	
5 土	成人式	
10 木	消防出初式	



第5表 住民負担の状況

税 目	47年度決算額	48年度当初予算	住民1人当税額	
			47年	48年
町 民 税	5,992 千	7,044 千	1,198円	1,409円
固定資産税	1,481.9	1,577.0	2,964	3,154
軽自動車税	1,439	1,460	288	292
たばこ消費税	6,273	6,200	1,255	1,240
電気ガス税	1,542	1,500	308	300
木材取引税	614	351	123	70
計	30,680	32,325	6,136	6,465

「2Pより続く」
住民負担の状況
町民の負担については、税金として納めて戴く分と事業等に対する受益者負担等があります。税金についてみますと第5表のとおりで、町民一人当り四七年度は六、一三六円、四八年度は六、四六五円となっています。

第7表 積立金の状況(48.3末現在)

区 分	基 金 額
財政調整基金	13,953千円
国民健康保険基金	5,233
公民館建設基金	20,045
厚生基金	250
奨学基金	2,300
国民年金印紙基金	1,200

負債及び積立金の状況
町が借り入れている長期債及び積立金の状況は第6表及び第7表のとおりとなっています。

第6表 町債の状況(48.3末現在)

区 分	現 在 額	町民1人当額
普 通 債	215,430 千	円
災害復旧債	13,036	
そ の 他	5,916	
計	234,382	4,687.6

授賞に輝く町内各学校

◎健康優良学校特選校に大原小学校
大原小学校はかねて県教育委員会の指定による、学校保健研究協力校として児童の健康管理、健康教育に積極的に取り組んでいました。この程その実績が認められ朝日新聞社主催文部省後援による健康優良校小規模校の部で、全国一〇校の特選校に選ばれました。
表彰式は去る十一月三日文化の日に、朝日新聞社東京本社において行なわれ、図師校長と児童会長の山下健一君が参列しました。
◎学校部分林優良校に田代中学校
田代中学校は終戦直後文部省の産業教育研究協力校に指定されましたが、当時の名ヶ迫広校長は山村の立地条件を生かした学校林育成を通じて産業教育の振興を計画され、昭和二六年から三二年まで七年間に亘って、荒西国有林内に学校部分林一五町歩を設置して戴き、生徒職員一体となって部分林の育成にげみましました。
その努力が報いられ、二

盛會に終った振興大会 特別表彰に故林憲之氏

本年度振興大会は恒例により勤労感謝の日の十一月二十三日午前十時から田代中学校屋内体育館において開催されました。
当日は町長の挨拶の後表彰式が行なわれ、教育、福

本年度振興大会表彰者

項目	部 類	団体の別	1 位	2 位	3 位
教育関係	社会教育の部	個人	西 秀 徳		
	学校教育の部	個人	宮 園 猛		
福 祉 係	納 税 の 部	団体	馬場・東ノ原・東中郡・橋口・岩崎・猪鹿倉 山下・折小野・鳥湖・池野・原沢・下 西中郡・大原住宅		
	たばこ作の部	総代区	鶴園総代区	柴立総代区	辺志切総代区
勤 業 関 係	緑 茶 の 部	個人	近川 辰己	白 桃 勇	富尾 浅市
	養 蚕 の 部	1 類	有馬 功	吉 田 東直	田 畑 一男
		2 類	田 尻 実義		
	畜 産 の 部	仔牛生産	川路善造・猪鹿倉忠義・川路文男		
		5 連産	白 桃 進・唐仁原美友・小梅枝一美		
		10 連産	近川兼盛・山口計佐吉・寺園五男 神山栄吉・舞原郁弥・平原助佐エ門		
特 別 表 彰	良質米出荷部	個人	時吉 秀夫	中村 秀義	前田伊蔵
			林 憲之		

第4表 昭和48年度各会計予算執行状況(昭48.9末現在)

町財政白書

昭和四八年度下半期の財政事情を公表します。
今回は昭和四七年度の決算状況及び昭和四八年度上半期の予算の執行状況について説明いたします。
現在町は生活環境の整備をはじめ、道路交通、産業振興、義務教育施設等各般に亘る施策を推進しつつあります。
町民の皆様もこれらの施策の推進について、ご理解とご協力をお願いいたします。

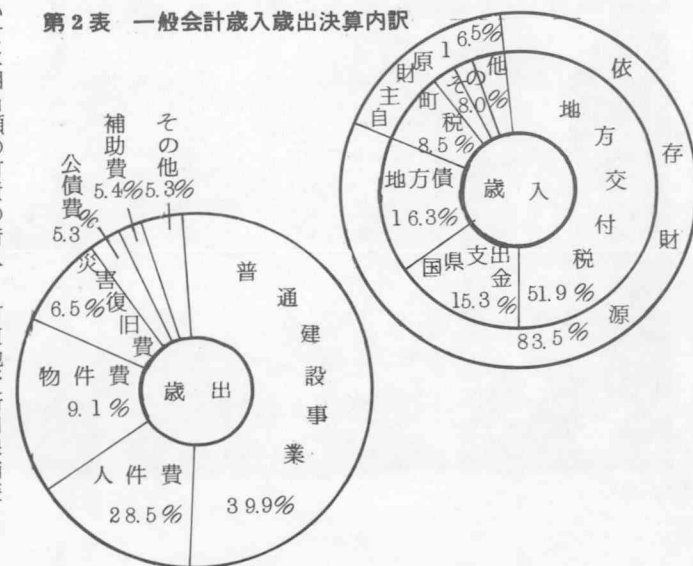
昭和四七年度決算状況

一般会計決算の内容
昭和四七年度各会計の決算状況は第一表のとおりで各会計共収支は黒字となっていますが、前年度からの繰越分の黒字を除いた単年度の収支は国保会計、水道会計共赤字となっています。特に国保会計は約三百万円の赤字となっており、医療費の急増が原因となっています。水道会計も全体的にみると収支トントンで、給水量の増又は料金改定がないと経営は苦しくなる傾向を示しています。

第1表 昭和47年度各会計決算状況 (単位千円)

会計別	才入決算額	才出決算額	差 引	(単年度収支)
一般会計	361,228	341,719	19,509	(11,727)
国保会計	52,485	52,365	120	(△ 2,994)
水道会計	6,434	6,252	182	(△ 55)
計	420,147	400,336	19,811	(8,678)

第2表 一般会計歳入歳出決算内訳



第3表 特別会計決算内容

国保会計		歳入	歳出
国県支出金	69.2 %	保険税20.2%	保険給付費 89.8%
		その他10.6%	その他2.3%
水道会計		事業収入 9.6%	事業費 38.2%
		その他4%	総務費 41.1%
			公債費 20.7%

第4表 昭和48年度各会計予算執行状況(昭和48.9末現在)

会計別	予算現額	執行率		差 引	執行率
		収入	支出		
一般会計	461,792	206,756	109,920	96,836	42.9
国保会計	66,986	24,802	23,162	1,640	37.0
水道会計	20,142	2,382	2,281	101	11.8
計	548,920	233,940	135,363	98,577	42.6

支出についても収入同様の傾向が示されていますが一般会計の支出割合が低いのは、本年度計画の各種事業の支払が、殆んど下半期になるためによります。
収支状況についても各会計概ね順調といえますが、水道会計については、稍収支の均衡を欠く実情にあり、下半期には収入の確保についての努力が必要であります。

物不足の時代に備えて

私達はどうすべきか

中東戦争に端を発した石油危機は、今私達の生活に大きな不安をかもし出しているようです。

塵紙や砂糖の買いだめ等が新聞等で報じられていますが、豊かな今までの生活から乏しい耐乏生活への後多量という不安があるようです。

石油の輸入減によって、石油を初めとする生活用品の生産はある程度少くなることは当然考えられますが、急に不足することは考えられないし、又国としてもそのような事態がないよう最大の努力を払うものと信じています。

現在行なわれている生活用品の買いだめが物不足に一層の拍車をかけていることを考えなければなりません。他の人はどうでも「自分だけは不自由をしたくない」という利己的な考え方は、何とも悲しいことです。物不足の時代は今後当分の間続くと考えられます。これについては国もできるだけの手を尽くすと思いますが、私達は「消費者」と

してどうすべきか、じっくり考えてみましょう。先ず私達にできることは次のようなことが考えられます。

物の買いだめをしない。一人の買いだめによって、他の多くの人が犠牲を強いられ、物不足を一層促進し、物価の引上げ、インフレ進行を招き、結局消費者

が損をすることになります。物を大切に節約する。

物の使い捨ての時代は終わりました。物は使える間は生かして使うと共に、暖房、電灯、テレビ、ガス等のつけ放しを止め、マイカーの使用も自粛する等、物の節約をしましょう。

資源の回収に協力する。古新聞、古雑誌も立派な紙製品に生まれ変わります。古新聞、古雑誌、空缶等大切に保管して、回収に備えておきましょう。

電気のことなら 九電モニターへ

九州電力では本年度下期(四八年十月から四九年三月まで)のモニターとして次の人を委嘱しました。

湯ノ谷 義雄(山下)

松田 イツ子(上原)

電気についての苦情、相談その他御意見等遠慮なくモニターにお聞かせください。よろしくお願いいたします。

地集からの市外申込は直通線「1」をダイヤルすれば

鹿屋局がでます

来る十二月二十五日午後二時から地域集電話から市外通話の方法が次のようになりま。

※「1」をダイヤルすれば直接鹿屋局の受付がでます。

市外通話の申込、電報の発信、電話番号の照会等に利用ください。

※「0」のダイヤルは従来どおり田代局がでます。町内の電話、電話の移転故障等の相談に利用ください。

尚、夜八時以降は通話がこみまです。夜間割引のない県内は昼間を御利用ください。

※十二月は電話料の納入月です。電話料の見込額は事前に農協口座へ預金をしておきましょう。

統計調査に協力を

☆出稼実態調査

昭和四八年十二月一日現在で、第四回目の出かせぎ実態調査が行なわれます。

この調査は出かせぎ者について出かせぎ先、出かせぎの理由等を調査すると共に留守家族の実情も調べて、県の労働力対策、出かせぎ対策等の資料を得るために行なわれます。

調査については調査員が訪問して聞き取り調査を行います。調査票は無記名になっており、又この結果は統計の目的だけに使用され、税金その他皆様の不利益になるようなことは絶対にありません。

皆様のご協力をお願いします。

☆工業統計調査

昭和四八年度の工業統計調査が十二月三十一日現在で行なわれます。

この調査は統計法に基づき指定統計調査で、結果は国民生活の広い分野で活用されています。

又調査結果の秘密は厳重に守られ、税金等に使用されることは絶対にありません。皆様のご協力をお願いします。

町誌編集にご協力を

町は昨年町誌の編集を計画し、編集委員としてそれぞれの専門家十人を委嘱して作業を進めています。編集の第一段階として、現在各分野の資料の収集を行なっていますが、委員の積極的な努力で、資料集第一集が出版され、近く第二集、第三集も出版の予定です。

町誌は田代町の歴史として、大昔から現在に至るまでの住民の生活、文化、経済、交通等あらゆる面の移り変りを収録して、後世に残す貴重な記録となります。そのためには、あらゆる面の資料が必要であります。現在では資料が少なくて作業は難航しています。

町民の皆様方で、古い文書、珍しい資料等をお持ちの方は是非ご協力をお願いいたします。特に江戸時代の耕地の割当制の資料となる「門割」又は「名寄帳」をお持ちの方は是非共町の「企画室」宛て一報下さるようお願いいたします。

皆様からお預りした資料はコピーをとって、原本は責任を以てお返しします。



長尾地区農地造成

長尾地区農地造成工事始まる

この事業の完成により麓地区にも初めての集団茶園が出現することになります。

麓長尾地区(大根田)の農地造成事業が始まりました。

この事業は優良緑茶の集団地造成を目的としたもので、総事業費二、二八〇万円、関係地区七、三ヘクタールを整地して、五、四ヘクタールの圃場が完成する見込みです。

工事は農開発公社の手によって順調に進んでおり、十二月二十五日には完成の予定で、完成後は建築方式により希望者に分譲されます。

健康と人権をテーマに 人権週間始まる

十二月四日から十日まで人権週間となっています。

本年度は「健康と人権」をテーマにして、これらについていろいろな問題について相談を受けることになっています。

今日私たちのまわりには公害や交通事故により健康を害されたり、誤診や治療の誤りによるいろいろな問題が起きています。

このような問題でお困りの方は近くの法務局か、本



お互いの人権を大切にしましょう

火事はチョットの油断から

冬は一年中で最も火災の多い時期です。

寒いために暖房用のストーブ、その他火の使用が多くなるとともに、空気は乾燥して火災が発生しやすくなります。

家庭においては必ず次のことに気をつけましょう

- ☆電気器具類
- 1 使用が終了したら必ず元栓をしめること
- 2 傷んだゴムホース等は新品と取替えること
- 3 ガス漏れの点検を充分

おわび

十一月の広報紙の人事異動(十月一日付)の記事に次の分が脱けていましたので、おわびしてお知らせいたします。

農委事務局長 小榎 正夫(議会事務局)



寒さの季節 火の気をつけて 枯草を燃やさない



猪鹿倉公民館附近

道路舗装工事 急ピッチ

本年度道路舗装計画は、早瀬瀬戸口線、鶴戸野盤山線等合せて五線約六、〇〇〇mで、全線共工事着手中でありますが、この程次の三線の工事は完了しました。残りの路線も年内には完成の見込で、これらの完成により町道の舗装延長は一三、七〇〇mとなり、全体の約一八%が舗装道となります。

早瀬瀬戸口線 三二八五(m)
(全線完成)
平石上原線 五二〇m
(四九年まで)
中郡中村線 二〇二m
(完成)



加入して 2年後には年金がもらえます

お年寄りの方でこれまで国民年金に加入していなかった人も、このたび加入できるようになりました。しかも、早い人は50年7月から年金が受けられる、たいへん有利なあつかいになっています。

加入できる人

明治39年4月2日から明治44年4月1日までに生れた人。

ただし、次のような人は除かれます。

1. 現在、共済組合や厚生年金などに加入している人。
2. 恩給や年金などを受けている人。
(障害年金や扶助料などを受けている人は加入できる)
3. 県・市町村議会の議員
4. 外国人

掛金は

1ヶ月 900円

加入してから5年間納めるのがたてまえですが、45年6月分にはさかのぼって納めることもできます。

年金額は

5年分の掛金(54,000円)を納めると毎年9,600円分の年金が受けられます。

この年金額は、物価があがればそれに応じて引き上げられます。

加入届は市町村役場へ

くわしいことは市町村役場で
おたずねください。



鹿児島県

加入申出期間 昭和48年10月1日～昭和49年3月31日 (現在受付中です)

年賀郵便・
年末小包は早目に
十二月十五日から年賀郵便の特別扱いが始まります。

年末は普通の郵便のほかに、年賀郵便、年末の小包等が殺到し、郵便局はこれらの郵便物の取扱いにてんでこ舞になります。

年末の郵便取扱が順調に行なわれるよう、年末の郵便物はできるだけ次の期限までに差出されるよう皆様のご協力をお願いします。

年末小包 十二月十五日まで

戸籍に関する情報は

ホームページ上では

掲載していません

みんなで明るい正月を「NHK歳末たすけあい」の
お知らせ
十二月一日から二十五日まで「みんなで明るい正月」をテーマにした「NHK歳末たすけあい」が始まります。

この運動はNHKのほか、全国社会福祉協議会も協力して、昭和二十六年の第一回から現在までに五十二億円余りの義援金が寄せられています。

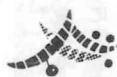
義援金は民生課、郵便局、NHK放送局で受付ます。恵まれない人も明るい正月を迎えられるよう、皆様の善意を心から期待いたします。

あとがき

十二月となり、今年もあつという間に過ぎたようです。激動の七〇年代にふさわしく国外、国内にいろいろなことが多く年でした。

中東戦争による石油輸出の削減とこれによる生活物資の生産縮小、石油、電気等のエネルギー不足等むずかしい問題をかかえたまま今年を終るようです。

このような情勢から来年も決して平穏な年ではないようです。然しながら考えようによっては、失なわれた「心」をとり戻すチャンスとも言えるかも知れません。



戸籍に関する情報は

ホームページ上では

掲載していません